

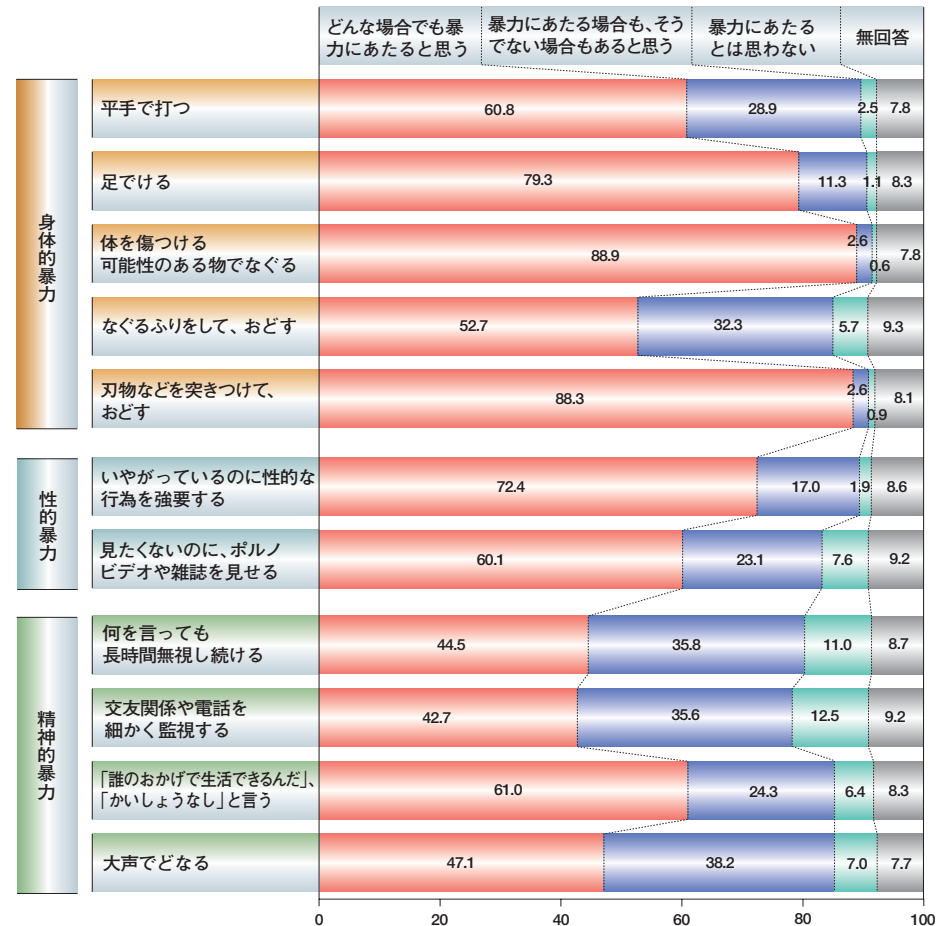
6 配偶者などからの暴力について

どのような行為がドメスティック・バイオレンス(DV)にあたると思うか？

総数 1931人 単位：%

配偶者などからの11の行為のうち、「どんな場合も暴力にあたると思う」と考える人が80%を超えているのは、「体を傷つける可能性のある物でなぐる」、「刃物などを突きつけて、おどす」などの身体的暴力となっています。

これに対して、「暴力にあたるとは思わない」と考える人が10%を超えているのは、「交友関係や電話を細かく監視する」、「何を言っても長時間無視し続ける」などの精神的暴力です。



この調査結果は、「さいたま市男女共同参画のまちづくりプラン」の見直し(平成20年度)及び今後の市の男女共同参画施策の推進に反映させるための基礎資料といたします。

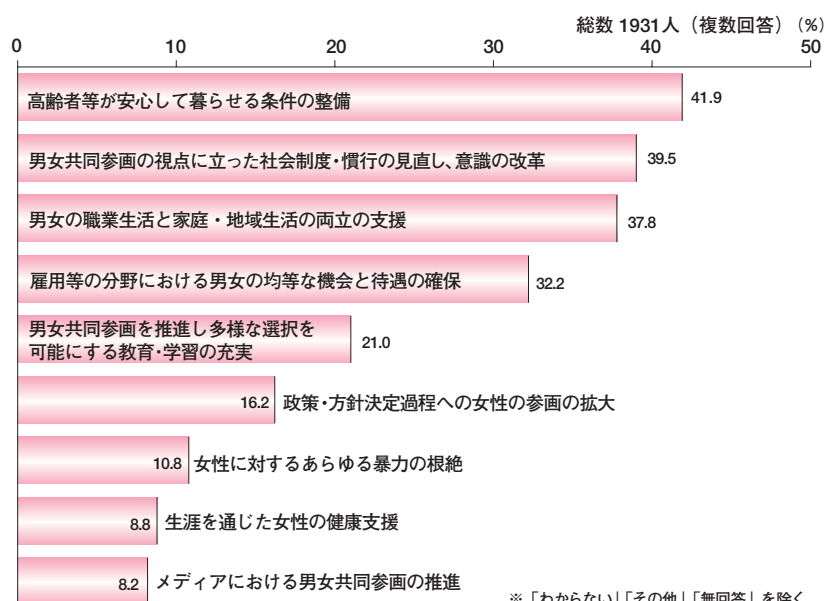
なお、本調査報告書及び概要版は、さいたま市のホームページ(<http://www.city.saitama.jp/index.html>)で全文をご覧ください。トップページから「広報・情報公開」の「男女共同参画」をクリックしてください。

また、次の施設で報告書の閲覧及び概要版の配布を行っています。各区役所の情報公開コーナー、各図書館、市役所7階男女共生推進課、パートナーシップさいたま(シーノ大宮センタープラザ3階)、女・男プラザ(緑区中尾プラザイースト3階)

7 市の男女共同参画の推進に関する施策について

男女共同参画社会実現のために市が力を入れていくべきことは？

高齢者等が安心して暮らせる条件の整備や男女共同参画のための制度・慣行の見直しが望まれています。



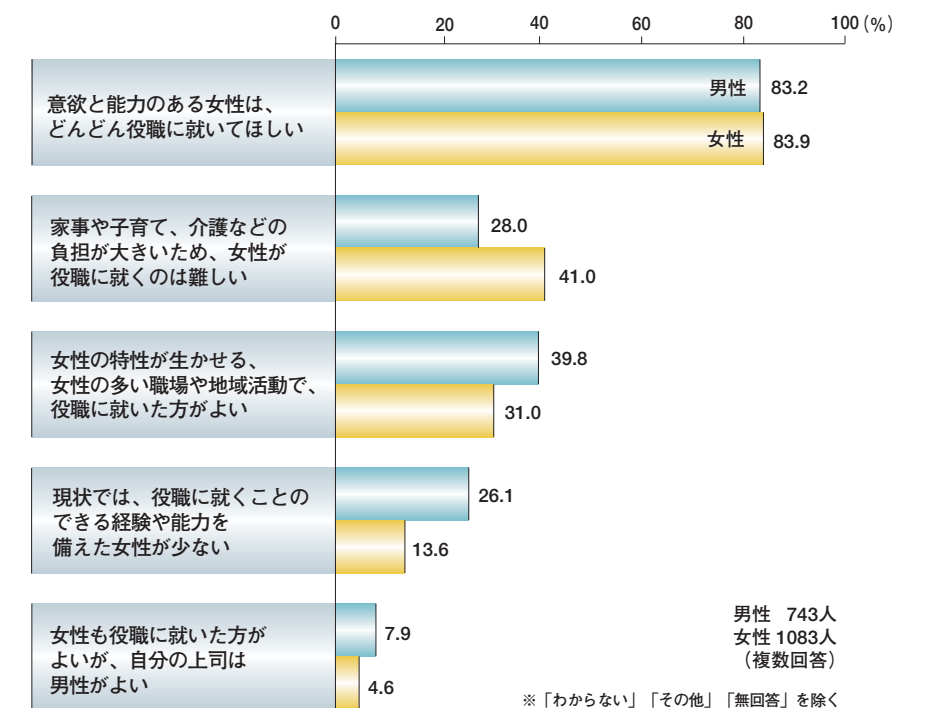
※「わからない」「その他」「無回答」を除く

4 社会参画について

女性の進出は望まれているが家事等の負担により難しい

女性が政策・方針決定の場に進出することについて、「意欲と能力のある女性は、どんどん役職に就いてほしい」という回答が80%以上を占めています。

一方で、女性の約40%が家事や子育て、介護などの負担が大きいため、女性が役職に就くのは難しいとしており、家庭生活との両立の難しさを感じているようです。



5 学校教育について

教育のしくみよりも、教育の中身に関する取り組みが求められている

学校教育の分野で力を入れて取り組むべきこととして、個性や能力に応じた生活指導・進路指導に加えて、性を尊重し子どもを産み育てることの大切さや、家庭生活に必要な実技を教えるなど、教育の中身に関する取り組みが求められています。

一方で、女性を校長や教頭に登用するなど、学校教育のしくみに関する要望は10%前後になっています。

